

そよ風



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

第3回

ワクチン接種の

「安心」を考える



- ★ 第3回 ワクチン接種の「安心」を考える
- ★ CAR-T細胞療法 ～最先端のがん免疫療法～
- ★ 人工関節手術における 最新のコンピュータ支援手術
—患者さんひとりひとりの病状に合わせた最新技術—
- ★ 皮膚科外来内日帰り手術室開設及び手術の開始
- ★ 「乳がん」と「遺伝」
- ★ 動脈硬化を「見る!」そして「診る!」
- ★ 最新のMR装置(3テスラ)導入のお知らせ
- ★ 診療科紹介 神経精神科
- ★ 認定看護師・専門看護師の活動について



現在、新型コロナウイルスワクチンの接種が世界各地で進んでいます。各国の接種率はどれくらいかご存じでしょうか？オックスフォード大学が運営している“*Our World in Data*” (<https://ourworldindata.org/covid-vaccinations>)によると、2022年2月2日現在、人口に占める2回接種完了者の割合は、世界平均で53%、日本国民では79%となり、新型コロナウイルスワクチンをいち早く導入した欧米諸国をも上回っています。

私はワクチンの研究に携わっていますが、このような状況は全く予想しておらず、「高くて40%ぐらい」と考えていました。

なぜなら、国際社会からみると、日本は「ワクチン接種をためらう傾向が強い国」として有名だからです。ワクチン接種へのためらい＝ワクチン忌避(きひ)とも言います(英語ではvaccine hesitancy)。世界保健機関(WHO)は、2019年に発表した「世界の健康に対する10の脅威」の1つとして、「ワクチン忌避」を挙げています。

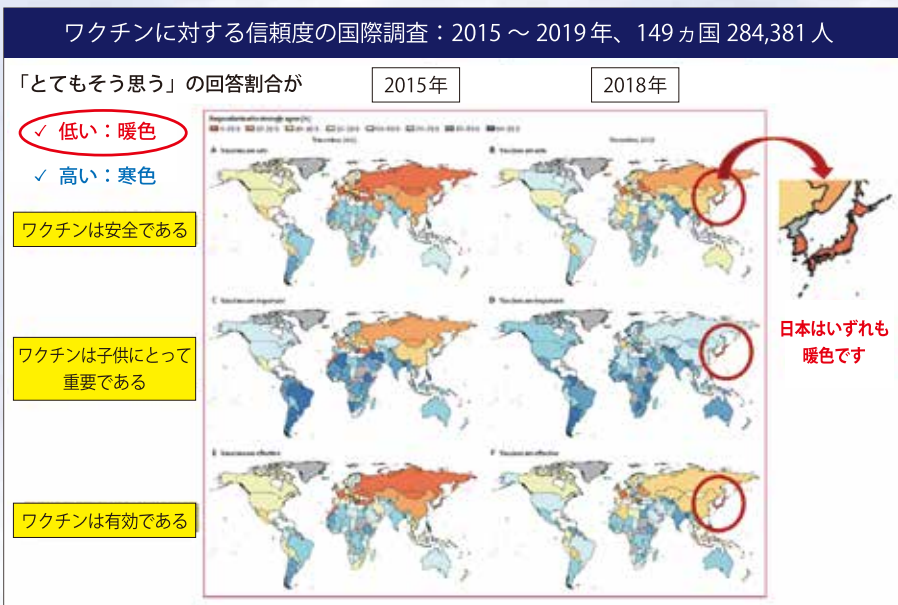
新型コロナウイルス感染症が流行する前の調査ですが、ロンドン大学の研究者らによる興味深い報告があります(右図)。ワクチンの安全性、重要性、有効性について、各国国民による信頼度とその推移を示しています。世界的には信頼度が高まっている傾向ですが、日本は信頼度が低いままです。

ただ、日本人は頑なにワクチンを忌避しているのではなく、あるワクチンを接種するかしないかについて、「自分ではなかなか決められない」のかもしれない。各国の国民性を表す有名なジョークで、「気が進まないことを人にしてもらうためには、どんな言葉をかけるのが良いか？」というものがありますが、アメリカ人には「ヒーローになれますよ」、ドイツ人には「規則ですのでやってください」、フランス人には「決してやらないでください」、そして日本人には・・・「みんなやっていますよ」だそうです。思い当たる節、私にはありますが、皆さんはいかがでしょう？

日本でここまでコロナワクチン接種が進んだ一番の理由は、先ほどの「みんな感」が浸透したことなのかもしれません。しかしながら、「みんな感」が浸透する過程で、ワクチンの有効性と安全性について、一般の方々の関心が高まったことも事実です。

今回、「そよ風」で3回に渡り、ワクチンに関する話題をお届けしてきました。皆様のご理解が少しでも深まったのであれば幸いです。

(公衆衛生学 福島 若葉)



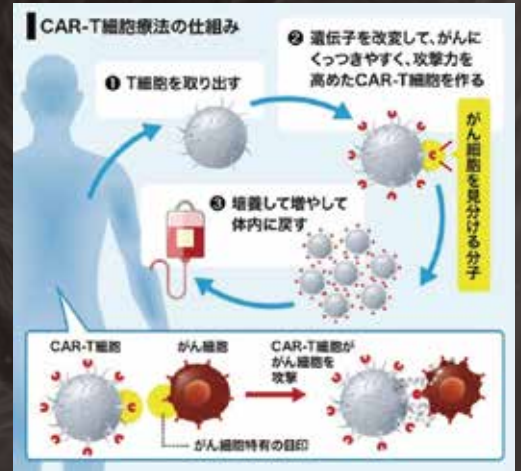
de Figueiredo A, et al. Lancet 2020 より引用 (福島により説明加筆)

CAR-T 細胞療法

～最先端のがん免疫療法～

これまでリンパ系の血液腫瘍は、治療後しばしば再発し、再発後の治療法の選択肢は限られていました。近年、キメラ抗原受容体発現T (CAR-T) 細胞療法が、再発・難治性のリンパ系腫瘍に対する新規の治療法として保険承認され、当科も治療施設の認定を獲得しました。この治療法は患者さん自身の正常リンパ球を採取し、その細胞に特殊な遺伝子 (CAR) を挿入します。この特殊な細胞を培養した後に患者さんに戻すと、目印の付いたリンパの癌を猛烈に攻撃・増殖し、悪性の細胞を完全に駆逐しうるパワーをもっています。一方でその強力すぎる免疫反応によって起こりうる特徴的な副作用 (サイトカイン放出症候群、神経毒性など) の危険を伴います。これまで治療の選択肢が無かった患者さんに、完治しうる治療法が加わった事は喜ばしいですが、今後さらに安全に治療を行えるよう日々取り組んで参ります。

(血液内科・造血細胞移植科 中嶋 康博、日野 雅之)



人工関節手術における最新のコンピュータ支援手術

—患者さんひとりひとりの病状に合わせた最新技術—



患者さんひとりひとりの病状 (関節形状・靭帯バランス) に合わせて人工関節手術を行うための手術支援ロボット



"World's Best Hospitals" 整形外科部門に選出されました

加齢や怪我などにより、膝・股関節の軟骨・骨が徐々に摩耗すると、痛みや動きが悪くなり、日常生活が困難になります。人工膝関節・人工股関節は、関節の痛みをとって、もう一度元気に歩けるようになる手術で、当院でも多く行われています。

しかし、膝・股関節の形状は個人差が大きく、これまでの方法では対応が難しいことがありました。そこで、患者さんひとりひとりの関節形状に合わせて、人工膝関節・人工股関節手術をより安全により正確に行うために、当院では最新のコンピュータ支援技術 (手術支援ロボット・コンピュータナビゲーション・3次元手術計画・オーダーメイド3次元手術支援ガイドなど) を導入しています。しかし、いくら最新の技術でも、すべての患者さんにとって最適であるとは限りません。当院では手術前に詳細な検査を行って、患者さんひとりひとりの病状を解析し、それぞれの患者さんにあった最適なコンピュータ支援技術を選んでいきます。当院での高い手術精度は海外の一流医学誌でも証明されており、また、“World's Best Hospitals” 整形外科部門にも選出されました。膝・股関節が痛くて、人工関節手術を受けようか、どうしようかと悩んでおられる方は、是非当院までご相談ください。

(整形外科 箕田 行秀、洲鎌 亮、大田 陽一、中村 博亮)

皮膚科外来内日帰り手術室開設 及び手術の開始

皮膚科では、以前より局所麻酔による日帰り手術を、4階手術室で行って参りました。今後も引き続き4階手術室での日帰り手術は行いますが、2021年9月に皮膚科外来エリアに日帰り手術室を開設しましたので、30分程度の日帰り手術は皮膚科外来で行っております。患者さんのメリットとしては、最短で初診日当日の手術が可能となり、通院回数の減少につながります。また、担当医との兼ね合いにもよりますが、曜日および時間に関係なく行えることもメリットの1つと考えます。皮膚科では、今後もさらに患者さんが受診しやすい体制を整えて参ります。



(皮膚科 小澤 俊幸)

新しく開設された日帰り手術室

「乳がん」と「遺伝」

乳がんになられる方は年々増加しており、1年間に約9万人が新たに乳がんを発症しています。乳がんや卵巣がんの約1割は遺伝性のがんであると言われており、その中で5、6割を占めるのが「遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC)」です。私たち人類は、傷ついた遺伝子を正常に修復する機能を持つBRCAという遺伝子を持っています。このBRCA遺伝子に異常がある場合は、乳がん・卵巣がん前立腺がんなどの発症リスクが高くなることがわかっています。



乳腺・内分泌外科の診療スタッフ

当院では、ゲノム医療センターで遺伝子カウンセリングを受けることができ、遺伝や遺伝病に関わる疑問や不安に対し、臨床遺伝学を専門とする医師や認定遺伝カウンセラーが対応をしています。乳腺・内分泌外科 (乳腺専門医) とゲノム医療センターがチームを組んでHBOCなどの「遺伝性乳がん」に取り組んでいます。「乳がん」と「遺伝」を正しく知っていただくために、専門スタッフは、きめ細やかな対応を心掛けています。 (乳腺・内分泌外科 柏木 伸一郎)



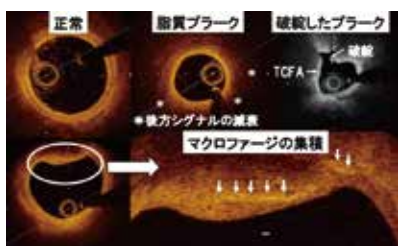
BRCA 遺伝子異常によるがんの発症リスク

動脈硬化を「見る！」 そして「診る！」

循環器内科では動脈硬化で狭くなったり、閉塞した心臓や足の動脈をカテーテルという細い管を用いて風船で広げるカテーテル治療を行っていることは、広く知られていることと思います。血流が改善すれば胸や足の痛みも良くなり患者さんにとっては満足していただけるのですが、当科では「治して終わり」ではなく、再発しないようにするための二次予防にも力を入れた診療に取り組んでおります。その一つの試みとして、カテーテルの際、「血管内イメージングカテーテル」と呼ばれる超音波や内視鏡で血管の中を観察します。

患者さんそれぞれの動脈硬化の「質」を診て、この情報を参考に治療方針を立てています (図1, 2)。得られる情報を最大限に活用して、これからもより質の高い医療の提供と患者さんの満足度向上を図っていきたくて考えております。 (循環器内科 山崎 貴紀)

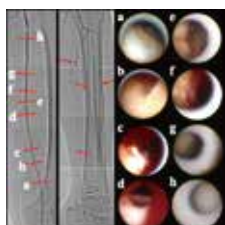
図1：冠動脈 (心臓の栄養血管) を光干渉断層像で観察した血管の画像



後方シグナルの減衰は脂質成分であることを示しており、その被膜が薄くなる (TCFA) と心筋梗塞を起こしやすいプラークであることがわかります。また、マクロファージという炎症細胞が集まっていることも非常に不安定な状態であることが示唆され、より厳格な予防が求められます。

後方シグナルの減衰は脂質成分であることを示しており、その被膜が薄くなる (TCFA) と心筋梗塞を起こしやすいプラークであることがわかります。また、マクロファージという炎症細胞が集まっていることも非常に不安定な状態であることが示唆され、より厳格な予防が求められます。

図2：下肢動脈の血管造影 (左) と血管内視鏡 (右) の画像



造影では一見、狭窄はないように見える場所でも、内視鏡で観察すると強い動脈硬化をきたしていることがわかります。特に e, f では我々が初めて報告した潰瘍性プラークが観察され、ここで生じる血栓が下流へ飛散を続けることで血流低下をきたしています。

最新のMR装置 (3テスラ) 導入のお知らせ

MR装置は、磁場を用いて身体の内部をあらゆる方向から撮影できます。放射線部門に設置されておりますが、放射線被ばくはなく、被ばくという観点では心配のない装置です。

この新装置の特徴は、3.0T (3テスラ) という強い磁場強度を備えていることです。患者さんが寝台に寝るだけで必要な呼吸情報を瞬時に認識できる機能や、自動で撮影部位の位置まで寝台を動かす機能なども持ちます。これらに因り、より高速で高精細に身体の内部を描出する画像情報が提供できます。脳内の小さな病変 (腫瘍、梗塞など) や血管の細かな状態 (瘤、狭窄など) がわかり、整形外科領域や腹部などの全身の検査が可能です。

また、撮影時に患者さんの入る装置の中も広く、狭いところが苦手な方に十分配慮された仕様となっています。その他、感染対策を含む安全管理体制も整備していますので、ぜひとも安心して検査をお受けください。

新装置の機能を最大限に活用することで患者さんの負担を軽減し、診断や治療に役立つ画像情報の提供に努めて参ります。検査についてのご質問などございましたら、お気軽にお尋ねください。

(中央放射線部 市田 隆雄)



左写真は新装置の外観写真。

右画像は下肢全体の血管画像。(細部まで細かく検査が可能)

シリーズ 診療科紹介 神経精神科

みなさんは、こころの不調・精神疾患が2011年に4大疾病(心臓病、がん、脳卒中、糖尿病)に加えられ、5大疾病として国が重要視しているのをご存知でしょうか。2000年頃からの情報化社会の到来、近年のコロナウイルス感染症の蔓延など、社会の急激な変化は前触れなく訪れ、こころの不調を示す人が増えているのです。眠れない、落ち込んでいる、不安、なんだか怖い、など様々なお悩みについてお話を聞き、助言対応しています。一般外来に加え、児童精神医学、摂食障害、職場のメンタルヘルス、物忘れなど、様々な専門外来もあります。少し相談してみようかな、と思われた時には、ぜひお気軽に神経精神科にご相談ください。(神経精神科 井上 幸紀)



神経精神科入り口

シリーズ 第18回 ~認定看護師・専門看護師の活動について~

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

感染管理
認定看護師

大阪市大病院の新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の全世界的な拡大から約2年が経過しました。当院は2020年4月から重症COVID-19患者さんの受け入れを開始し、これまで多くの方が入院されました。私たち感染管理認定看護師は、院内感染防止活動はもちろんのこと、大阪市保健所と協力し様々な施設のクラスター対策の支援など、院内外の幅広い場所で活動しています。当院では現在までに、院内感染の発生はなく、経過することができており、これは職員と患者さん、来院されるすべての方々のご協力があって成しえています。

今後も安全な医療を提供し続ける為、皆さま、引き続きご協力の程よろしくお願いたします。

当院の COVID-19 院内感染予防への取り組み

1. 職員の手洗い・手指消毒、個人防護具(マスクや手袋)を使用するなど感染対策を徹底しています。
2. 消毒薬や紫外線装置を活用した環境の清掃と消毒を徹底しています。
3. 症状がある患者さんとそれ以外の患者さんが交差しないような診療体制を整備しています。
4. 職員の健康管理を強化しています。
5. 入院患者さん全員に対し、入院時にCOVID-19(PCR)検査を実施しています。



院内感染対策手指消毒

感染制御部(感染管理認定看護師)の地域での感染対策支援活動

1. 高齢者施設、障がい者施設、学校などへのCOVID-19クラスター対策支援をしています。
2. 大阪市内の病院へ感染対策の助言、指導を行っています。

患者さま、ご家族の皆様へのお願い

1. マスクは、素材によってフィルター効果に差があり、不織布のマスクが最も感染予防効果があります。外出や病院への通院時に、不織布マスクの着用と手指衛生をお願いします。
2. 毎日、検温を行ない、記録を残すなど、日常から体調管理をご自身で行うようにお願いします。
3. 感染を疑う症状がある時や普段と比べ体調に変化がある場合、周囲にCOVID-19陽性者がいらっしゃる場合は、来院前に電話でご連絡ください。
4. すべての方を感染から守るために、面会制限や禁止、来院者数の制限へのご理解とご協力をお願いします。
5. アレルギーや治療への影響がない場合は、ワクチン接種による免疫の獲得を推奨しています。ご病気でワクチン接種について不安がある場合には主治医へご相談ください。

(感染制御部 感染管理認定看護師 野々瀬 由佳)



高齢者施設で感染対策を実践指導

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
専門看護師とは、公益社団法人日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、ある特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有することを認められた者をいいます。

※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用
認定看護師: <https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>
専門看護師: <https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>

発行 / 大阪市立大学医学部附属病院

所在地: 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話: (06) 6645-2121 (代表)

<https://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

初診受付時間: 午前8時45分~午前10時30分
休診日: 土・日・祝日、12月29日~1月3日